

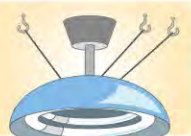
屋内の安全対策

地震で建物が倒壊しなくても、家具の転倒やガラスの飛散等により、大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、屋内の安全性を高めておきましょう。



収納に工夫を

- タンスや本棚などにもものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにします。
- 本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。



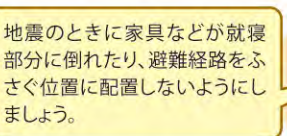
照明器具の補強を

- 吊り下げ式の照明器具は、チェーンなどで止めておきましょう。



置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒防止のビニール樹脂状のものを入れ、壁にもたれ気味にします。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫を。



地震のときに家具などが就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置しないようにしましょう。

正しい配置



ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。



耐震金具を利用しよう

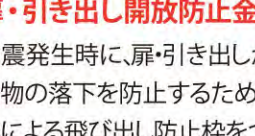
転倒防止金具

壁や柱と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。



重ね留め用金具

重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。



扉・引き出し開放防止金具

地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを置いたり木やアルミ棒による飛び出し防止枠をつけると安心です。

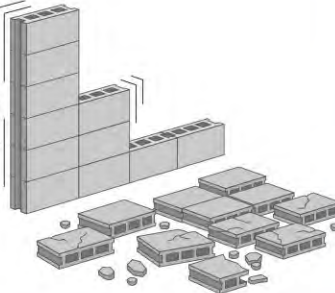


屋外の安全対策

地震の揺れにより、ブロック塀などが崩れてケガをしたり、ガスボンベ等が倒れるなどした場合に、火災やけがにつながる場合があります。事前に家の周りを点検し、屋外の安全性を高めておきましょう。

壁・塀

- 壁や塀にひび割れなどがないか、腐ったりしていないか点検しましょう。
- ブロック塀は、地震の揺れにより崩れる可能性があるため、できれば安全な生垣などにしましょう。



ガスボンベ

- ガスボンベは、動かないように壁に固定しましょう。
- ガスボンベの周りには、物を置かないようにしましょう。



地震が起きたときにとるべき行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、海岸付近で揺れを感じた場合は、すぐに津波が襲来することがありますので、津波警報や津波注意報の発表を待たずに、ただちに高台などに避難してください。

1 地震発生! 地震の揺れから身を守る

- 落ち着いて自分の身を守る。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- 土砂災害の予測される地域は、ただちに避難する。



2 安全の確認 避難の準備・開始 沿岸部では津波警報を待たずに、ただちに避難

- 家族の安全を確認する。
- 火の元を確認・初期消火を行う。
- 足をケガしないように靴をはく。
- 揺れがおさまったら、ただちに避難する。ただし、海岸付近にいる場合は、揺れと同時に避難する。
- 非常持ち出し品等を用意する。
- 余震に注意。

- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。
※復旧時の火災・事故を防ぐため。
- 地域の要配慮者の手助けを行う。



3 情報の入手 情報の収集は安全な場所で行う

- 安全な場所に移動してから、正確な情報を確認する。
- 間違った情報や、うわさ、デマなどに惑わされないように注意する。
- 安全が確認されるまで、自宅には戻らない。



4 避難施設へ移動 一時的に避難した場所から、避難施設や自宅へ移動

- 安全の確認ができれば、一時避難した場所から避難施設などに移動する。
- 避難施設では集団生活のルールを守り、助け合いの心を持つ。
- 引き続き、災害情報・被害情報を収集する。



緊急地震速報を見聞きしたら

「緊急地震速報」は、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域を対象に報道機関や防災機関からみなさんに伝えられます。

この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



(※)・・・学校統廃合により廃校となった小学校は、今後の活用状況により、避難所指定が取り消される可能性があります。

地震

1:52500 0 500 1000 1500 2000m

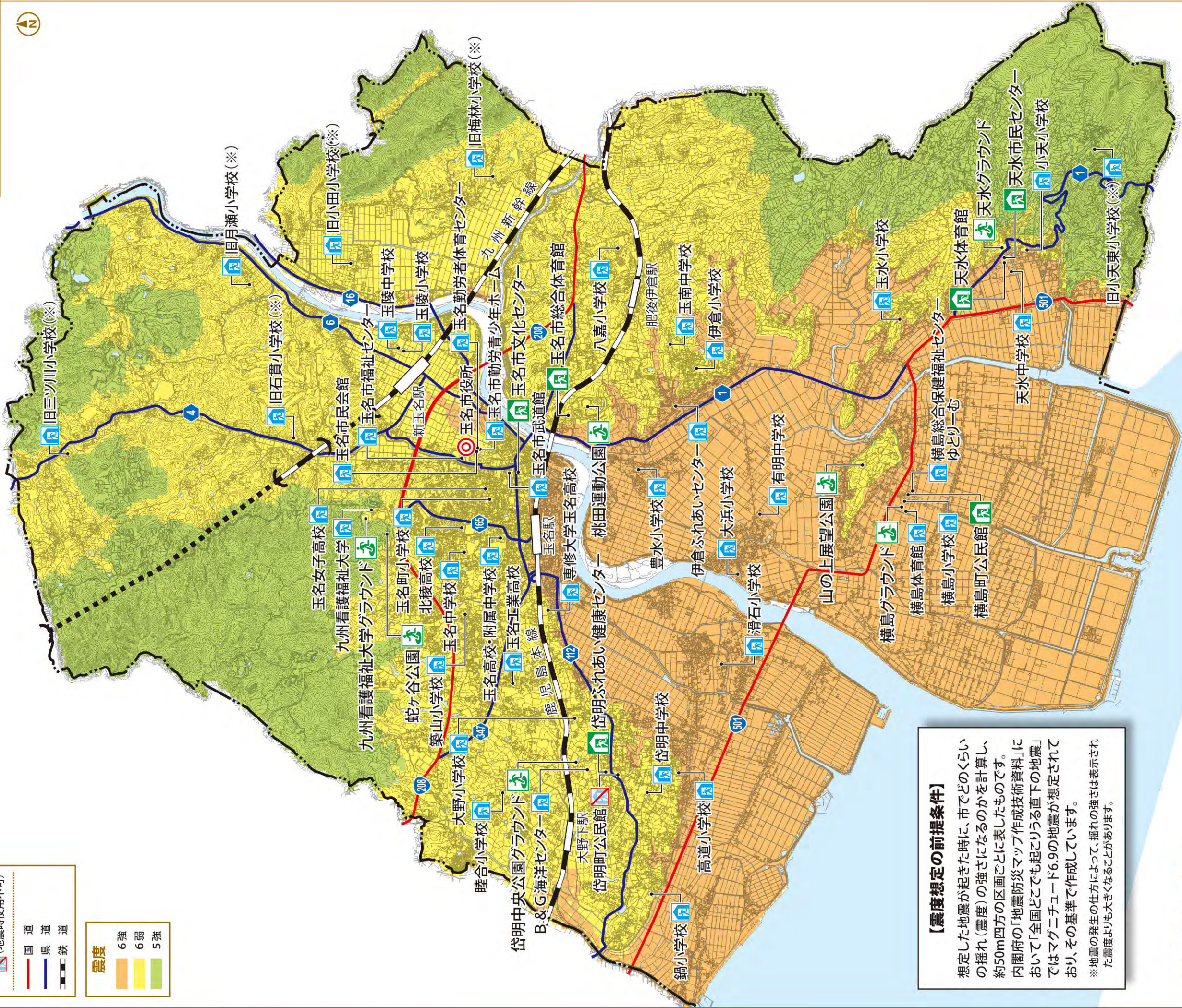
施設等凡例

- 指定緊急避難場所
- 一次避難所
- 二次以降の避難所
- (地震時使用不可)

- 国 道
- 県 道
- 鉄 道

震度

- 6 強
- 6 弱
- 5 強



【震度想定の前提条件】

想定した地震が起きた時に、市でどのくらいの揺れ（震度）の強さになるのかを計算し、約50m四方の区画ごとに表したものです。内閣府の「地震防災マップ作成技術資料」において「全国どこでも起こりうる直下の地震」ではマグニチュード6.9の地震が想定されており、その基準で作成しています。

※地震の発生の仕方によって、揺れの強さは表示された震度よりも大きくなる場合があります。

震度と揺れの状況

震度5強

- 物につまもらないとい歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多い。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多い。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多い。